

2. 経費支出概要書（経費内訳）
 (1) 経営相談支援事業

箕面商工会議所
 (単位：円)

区 分	変更前			変更後			差額	
	事業所数/回数	算定基準	補助金額	事業所数/回数	算定基準	補助金額	算定基準	補助金額
事業所カルテ・サービス提案	205	5,125,000		205	5,125,000		0	
支援機関等へのつなぎ	6	60,000		6	60,000		0	
金融支援（紹介型）	10	300,000		10	300,000		0	
金融支援（経営指導型）	35	1,400,000		35	1,400,000		0	
マル経融資等の返済条件緩和支援	1	20,000		1	20,000		0	
資金繰り計画作成支援	10	200,000		10	200,000		0	
記帳支援	3	75,000		3	75,000		0	
労務支援	6	120,000		6	120,000		0	
人材育成計画作成支援	2	40,000		2	40,000		0	
マーケティング力向上支援	50	1,000,000		50	1,000,000		0	
販路開拓支援	32	640,000		32	640,000		0	
事業計画作成支援	48	2,400,000		48	2,400,000		0	
創業支援	28	560,000		28	560,000		0	
事業継続計画(BCP)作成支援	10	200,000		10	200,000		0	
コスト削減計画作成支援	1	20,000		1	20,000		0	
財務分析支援	5	50,000		5	50,000		0	
5S支援	0	0		0	0		0	
IT化支援	10	200,000		10	200,000		0	
債権保全計画作成支援	0	0		0	0		0	
事業承継支援	3	60,000		3	60,000		0	
災害時対応支援	0	0		0	0		0	
フォローアップ支援	50	250,000		50	250,000		0	
結果報告	205	2,050,000		205	2,050,000		0	
小 計	—	14,770,000	14,770,000	—	14,770,000	14,770,000	0	0

(2) 専門相談支援事業

事業名	変更前			変更後			差額	
	支援日数	算定基準	補助金額	支援日数	算定基準	補助金額	算定基準	補助金額
金融相談専門員	116	2,784,000		116	2,784,000		0	
法律相談	6	144,000		6	144,000		0	
金融相談	10	240,000		10	240,000		0	
税務相談	10	240,000		10	240,000		0	
経営相談	55	1,320,000		55	1,320,000		0	
小 計	—	4,728,000	4,728,000	—	4,728,000	4,728,000	0	0

※支援日数×24,000円。ただし、記帳支援のために税理士を活用する場合、事業所数×26,000円

(3) 地域活性化事業

	変更前		変更後		差額	
	算定基準	補助金額	算定基準	補助金額	算定基準	補助金額
小 計	別紙事業調書のとおり	11,433,435	別紙事業調書【変更後】のとおり	11,433,435		0

(4) 商工会等支援事業

	変更前		変更後		差額	
	算定基準	補助金額	算定基準	補助金額	算定基準	補助金額
小 計		479,750		479,750		0

(5) 合計

	変更前		変更後		差額	
		補助金額		補助金額		補助金額
申請合計		31,411,185		31,411,185		0

事業名		商業活性化アクションプラン推進事業	新規/継続	継続
想定する実施期間		H 15 年度～ 年度まで	←複数年段階的实施事業は左欄に○を また、別紙にて計画を提出すること	
事業 の 概 要	事業の目的 (現状や課題をどのような 状態にしたいか)	<p>箕面市は、全域が都市計画区域に指定されており、市街化区域のうち、住居系の用途地域が全体の約9割を占め、残りの地域は商業系の用途地域で占めている。市内の約85%を占めている商業活性化を目的とし、平成15年度より本事業を継続的に実施している。</p> <p>商店街活性化のソフト事業は、すぐには成果が出にくいですが、継続して実施していくことで少しずつ成果が表れてきており、着実に成果が出ている事業である。平成22年度より実施している「箕面100円商店街」は個店の魅力発掘や創出、まちの賑わいづくりに寄与しているが、継続的・組織的に商店街を魅力あるものにしていくためには、個店の活性化こそが最重要課題である。この課題を解決するため、平成24年より実施している「みのおのまち商学校」では、高い専門性やこだわり等といった店主(あるいは店舗)の魅力を、顧客にダイレクトに伝える機会を創出している。また、まちゼミのノウハウは、顧客関係性強化や新規顧客獲得策として、小売・サービス業以外の業種でも応用できるため、業種や店舗の立地には特に制約を設けず、商店街に属さない事業所でもチャレンジできる機会を広く提供している。</p> <p>「箕面100円商店街」「みのおのまち商学校(まちゼミ)」と2つの事業があるが、それぞれの業種ごと、地域ごと、事業所ごとに状況が異なり、また事業者の熟度、取り組み方に温度差がある。事業者と頻繁に接している経営指導員がこれらを勘案し、それぞれの事業所に適した事業を選択・提案し、無理なく取り組んでもらえるよう支援しながら箕面市内の商業活性化を図る。</p>		
	支援する対象 (業種・事業所数等)	商店街組合及び商店街を形成する箕面地区の事業所(約150事業所)、および桜井地区の事業所(約70事業所)、粟生地区の事業所(約20事業所)、小野原地区の事業所(約30事業所)、牧落地区の事業所(約40事業所)その他商店街以外の小売・サービス業		
	事業に対する 企業ニーズ (内容・把握方法等)	より実態に即した状況を把握できるよう内容を見直しながら、参加店アンケート調査、来街者アンケート調査、通行量調査等によりニーズを把握している。事業実施後は参加者同士で反省会や報告会を実施することで、より効果の高い事業となるようPDCAを実施している。		

事業名	商業活性化アクションプラン推進事業	新規/継続	継続
これまでの 取組状況 ※継続事業の 場合のみ記入	実施内容・ 実績数値	<p>【箕面100円商店街】 開催日全日、台風の影響により荒天が危ぶまれていたが、当日は曇りや晴れに恵まれ、過ごしやすい気候で各地区とも実施することができ、過去最高の来場者数となった。桜井地区9月21日(土)、牧落地区9月22日(日)、粟生・小野原地区9月28日(土)、箕面地区9月29日(日)に実施し、参加店舗数は合計134店舗で来場者数は22761人であった。 前回に引き続き100円に加えて500円1000円商品の出店も約3割の店舗で実施し、来場者からは買い物の選択肢が増えると喜んでいただけた。桜井地区で実施した子供向けイベント「100円★KIDSパーク」では、小学生以下の子供とその家族が主に来場し、全てのプログラムに絶えず行列ができる状態で、100円商店街全体の魅力向上・集客に貢献できた。また、各地区でゆずるといっしょにイベントを盛り上げる企画を実施したことで、ゆずるの登場を心待ちに、店舗での買い物を楽しんでいた来場者が多く見受けられた。 来場者の目的としては、「目当ての100円商品がある」「企画が楽しそうだから」という理由で来場される方が多く、6割以上がリピート来場者であり、ほぼ全ての方が「来年も来たい」と答えており、毎年楽しみにしてくださっている様子がうかがえる。</p> <p>【みのおのまち商学校】 平成24年度の事業開始から、現在では夏と冬の年に2回開催しており平成31年度は第14回、第15回目の実施でそれぞれ34、31事業所が参加している。夏は76講座、冬は63講座を実施、夏の集客数はのべ320名であった。最近は、会社員の受講が増加し受講者から18時以降や土日開催の要望が増え、冬開催は今までよりもナイト開催や土日開催の講座を増やし、チラシにもナイトマークを付け受講しやすくした。前年度初めて実施した同日同会場開催まちゼミは、受講者・参加店共に好評だったため引き続き実施。同会場で並行し、複数講座が開催されたり、1日を通して違う講座が開催されることで、新規参加の事業所には参加しやすく、受講者には文化祭のような盛り上がりがあり、お得感があり満足度も高かった。受講者アンケート結果から、大満足満足が99.9%を占めた。又各店舗のPRを一覧表にまとめ参加店で共有し、事業所間でのゼミ紹介を促した。まちゼミをきっかけに初来店された見込み客に対し、店主や店のファンとなる絶好の機会を創出し、再来店や新規顧客にも繋がった。</p>	
	反省点	<p>【箕面100円商店街】 10年目11回目の開催で、消費者へも一定認知が定着してきており、毎年楽しみにしているという声を聞く一方で、店舗ではマンネリ感が否めず、地区によっては来場者数の減少を感じているようである。各地区商店会の会長が中心となり、イベントを盛り上げるための取組も実施しているが、商店会長の高齢化もあり、年々縮小傾向にあることも要因であると考えられる。当イベントを通じ、新たな販路開拓に繋がっていきたくと考えている次世代のリーダー層の育成も今後は必要であると考えられる。また、来場者にとっても、新たな店舗の魅力を発掘してもらうため、イベントの回遊性を高める仕掛けや、賑わいや導線を創出するための企画を盛り込みながら、「店舗の認知度及び販売機会の向上」に繋がっていけるよう、事業の見直し、改善を行い今後も事業を遂行していく。</p> <p>【みのおのまち商学校】 参加事業所の業種としては、美容系、保険系、鍼灸系が毎回多く、受講者からは、自分でできるモノづくりへの挑戦や料理等もっと色々な種類の講座が欲しいという声が多い。しかし、人気の高い飲食系・モノづくり系の開催がなかなか伸びない。今年度は事業者から、申込前に毎定期的に勉強会を開催したいという意見があり、夏は事業者主体で参加を呼びかけ異業種の意見を取り入れて講座を考える勉強会、冬は「テーマや内容について」経営指導員が講義行った後、少人数でディスカッションを実施しとても好評だった。毎回まちゼミ実施後に報告会を開催しているが、参加者数が参加店の3分の1程度なので、出来るだけ報告会へ参加を促せるように、勉強会を併せて開催するなど工夫をして行く必要がある。また、事前の周知に関して、各事業所が実施できるようポスターやチラシを配布しているが、Web等を活用した周知は、各事業所によって対応がバラバラであり、あまり積極的ではない事業所の集客は少ない傾向があった。今後は、各事業所の集客力向上、魅力向上に向けた支援を強化させていきたい。</p>	

事業名		商業活性化アクションプラン推進事業	新規/継続	継続
具体的な実施内容・手法 (該当型に○)いつどこで何をどのようにするのかを明確に)	人材育成型	①箕面100円商店街【販路開拓型】 箕面100円商店街の形式は踏襲しながら、サブテーマとして回遊性を高める企画を実施。箕面市内5地区(箕面、桜井、粟生、小野原、牧落地区)にて実施。来街者アンケートでは、「毎回楽しみにしている」「もっと店舗を増やして欲しい」という声が多くあるため、未参加の店舗へも積極的に声かけをおこない、地域一体となり、魅力ある店舗との出会いに繋げていくことを目指す。参加店舗数は150店舗を目指し、開催時期は地域のイベントと重ならないよう商店街連合会と調整しながら決定していく。(10~11月頃予定) ②みのおのまち商学校【販路開拓型】 夏と冬の年2回開催し、参加店舗数は30~35店舗を目指す。まちゼミの創始者「松井洋一郎氏」を招聘し、全国のまちゼミの事例やまちゼミを活用したファンづくりについて事前勉強会を実施する。また、事業者から希望のあった「勉強会」を定期的に行い、テーマ、内容、効果的な講座の進め方や講座実施後のフォロー等について、指導員や専門家の意見を交えながら、参加者同士でゼミの内容等をブラッシュアップする付随活動にも注力していく。		
	人材交流型			
	○ 販路開拓型			
	ハンスオン型			
	独自提案型			
事業手法 (該当する場合は○印と下欄にその根拠)		<input type="checkbox"/> (a)府施策連携 <input type="checkbox"/> (b)広域連携 <input checked="" type="checkbox"/> (c)市町村連携 <input type="checkbox"/> (d)相談事業相乗効果		
		(c)箕面市が策定した商業活性化ビジョンを受け、箕面商工会議所が具体的なアクションプランを遂行するという形態で、箕面市からの補助金を受けて事業を実施している。その他市内関係施設にチラシ、ポスター設置、後援名義の使用など、協力体制を取る。(d)イベントがきっかけで接点があった事業所に、その後の顧客との関係性構築など発展的支援を行うことにより、相談事業カルテと連携させる。		
事業の目標	支援対象企業数	設定根拠及び募集方法⇒ 「箕面100円商店街」参加店舗数 箕面100円商店街に参加する約150店のうち、効果測定を行う約80店を対象。商店街エリアの店舗に、参加店募集の案内等を持参して広く参加を募る。 80 店		
	支援対象企業の変化	「箕面100円商店街」による支援対象企業への効果は大きく3つに分類できる。 ①店頭の通行人数増加による、店舗視認率、販売機会の向上 ②来店客数の増加及びそれに伴う売上の増加 ③後日再来店を促進させることによる顧客数の増加 長期的には顧客化による継続的な売上の向上を目指すため、③が重要であるが、本事業においては、実際に効果測定が可能な項目にする必要があるため、②の来店客数の増加を指標とする。	指標 開催日当日の来店客が、通常期に比べ「増加した」と回答した参加店舗数(アンケート調査による)	数値目標 60店
	支援対象企業数	設定根拠及び募集方法⇒ まちゼミ「みのおのまち商学校」参加事業所数。過去の実績データより算出。 広報誌やチラシ、経営指導員による勧誘のほか、参加事業所からの紹介により参加事業所を募る。 30 社		
	支援対象企業の変化	1開催あたり平均5名程度の受講者であることから、2日開催と想定し、1店舗当たりのまちゼミ事業への集客人数を指標とする。この数字は後日固定客につながる可能性のあるものなので、非常に重要な指標と考えている。	指標 1店舗あたりのまちゼミ事業への集客人数	数値目標 10人
	その他目標値	目標値の内容⇒ 20 社 まちゼミ参加事業所の自主開催による勉強会への延べ参加事業所数。		

事業名		商業活性化アクションプラン推進事業					新規/継続	継続			
算定基準により算出される額	算定基準 (行が足りない場合は、⇒の行に挿入)	⇒	サービス単価		支援企業数		係数		標準事業費		
			50,500 円 ×		80	×	1.00	=	4,040,000	円	
			50,500 円 ×		30	×	1.20	=	1,818,000	円	
			円 ×			×		=		円	
		(小計)							5,858,000	円	
		※新規の広域連携事業の場合は広域連携促進費を加算(小計の5%)								円	
		計							5,858,000	円	
	独自提案単価及び独自補正係数の根拠 (基準どおりの場合不要)										
	算出額		①市町村等補助		2,340,000 円	交付市町村等		箕面市			
			②受益者負担		円	負担金の積算					
(a)府施策連携			(b)広域連携	○	(c)市町村連携	○	(d)相談事業相乗効果				
標準事業費			補助率		(①市町村等+②受益者負担)						
5,858,000 円 ×			0.50 =		2,929,000 円		(2,340,000 円)				
補助金の団体配分 (「代」欄には、中核団体またはヒアリングで説明する代表団体に○)		代	商工会・会議所名	配分額	役割(配分の考え方)						
				円							
				円							
				円							
				円							
				円							

【備考】

※別添で補足する内容があれば添付してください。

事業名		商業活性化アクションプラン推進事業	新規/継続	継続
想定する実施期間		H 15 年度～ 年度まで	←複数年段階的实施事業は左欄に○を また、別紙にて計画を提出すること	
事業の概要	事業の目的 (現状や課題をどのような状態にしたいか)	<p>箕面市は、全域が都市計画区域に指定されており、市街化区域のうち、住居系の用途地域が全体の約9割を占め、残りの地域は商業系の用途地域で占めている。市内の約85%を占めている商業活性化を目的とし、平成15年度より本事業を継続的に実施している。</p> <p>商店街活性化のソフト事業は、すぐには成果が出にくいですが、継続して実施していくことで少しずつ成果が表れてきており、着実に成果が出ている事業である。平成22年度より実施している「箕面100円商店街」は個店の魅力発掘や創出、まちの賑わいづくりに寄与しているが、継続的・組織的に商店街を魅力あるものにしていくためには、個店の活性化こそが最重要課題である。この課題を解決するため、平成24年より実施している「みのおのまち商学校」では、高い専門性やこだわり等といった店主(あるいは店舗)の魅力を、顧客にダイレクトに伝える機会を創出している。また、まちゼミのノウハウは、顧客関係性強化や新規顧客獲得策として、小売・サービス業以外の業種でも応用できるため、業種や店舗の立地には特に制約を設けず、商店街に属さない事業所でもチャレンジできる機会を広く提供している。</p> <p>「箕面100円商店街」はまちの賑わいを創出する事業であり、3密を避けることが難しいため、今年度の開催は断念し、各個店が感染症対策を実施しながら少人数で開催する「みのおのまち商学校(まちゼミ)」事業を実施する。</p>		
	支援する対象 (業種・事業所数等)	商店街組合及び商店街を形成する箕面地区の事業所(約150事業所)、および桜井地区の事業所(約70事業所)、粟生地区の事業所(約20事業所)、小野原地区の事業所(約30事業所)、牧落地区の事業所(約40事業所)その他商店街以外の小売・サービス業		
	事業に対する企業ニーズ (内容・把握方法等)	より実態に即した状況を把握できるよう内容を見直しながら、参加店アンケート調査、参加者アンケート調査等によりニーズを把握している。事業実施後は参加者同士で反省会や報告会を実施することで、より効果の高い事業となるようPDCAを実施している。		
これまでの取組状況 ※継続事業の場合のみ記入	実施内容・実績数値	<p>【箕面100円商店街】 開催日全日、台風の影響により荒天が危ぶまれていたが、当日は曇りや晴れに恵まれ、過ごしやすい気候で各地区とも実施することができ、過去最高の来場者数となった。桜井地区9月21日(土)、牧落地区9月22日(日)、粟生・小野原地区9月28日(土)、箕面地区9月29日(日)に実施し、参加店舗数は合計134店舗で来場者数は22761人であった。 前回に引き続き100円に加えて500円1000円商品の出店も約3割の店舗で実施し、来場者からは買い物の選択肢が増えると喜んでいただけた。桜井地区で実施した子供向けイベント「100円★KIDSパーク」では、小学生以下の子供とその家族が主に来場し、全てのプログラムに絶えず行列ができる状態で、100円商店街全体の魅力向上・集客に貢献できた。また、各地区でゆずるといっしょにイベントを盛り上げる企画を実施したことで、ゆずるの登場を心待ちに、店舗での買い物を楽しんで来た来場者が多く見受けられた。 来場者の目的としては、「目当ての100円商品がある」「企画が楽しそうだから」という理由で来場される方が多く、6割以上がリピート来場者であり、ほぼ全ての方が「来年も来たい」と答えており、毎年楽しみにしてくださっている様子がうかがえる。</p> <p>【みのおのまち商学校】 平成24年度の事業開始から、現在では夏と冬の年に2回開催しており平成31年度は第14回、第15回目の実施でそれぞれ34、31事業所が参加している。夏は76講座、冬は63講座を実施、夏の集客数はのべ320名であった。最近では、会社員の受講が増加し受講者から18時以降や土日開催の要望が増え、冬開催は今までよりもナイト開催や土日開催の講座を増やし、チラシにもナイトマークを付け受講しやすくした。前年度初めて実施した同日同会場開催まちゼミは、受講者・参加店共に好評だったため引き続き実施。同会場で並行し、複数講座が開催されたり、1日を通して違う講座が開催されることで、新規参加の事業所には参加しやすく、受講者には文化祭のような盛り上がりがあった、お得感があり満足度も高かった。受講者アンケート結果から、大満足満足が99.9%を占めた。又各店舗のPRを一覧表にまとめ参加店で共有し、事業所間でのゼミ紹介を促した。まちゼミをきっかけに初来店された見込み客に対し、店主や店のファンとなる絶好の機会を創出し、再来店や新規顧客にも繋がった。</p>		

事業名		商業活性化アクションプラン推進事業	新規/継続	継続
反省点		<p>【箕面100円商店街】 10年目11回目の開催で、消費者へも一定認知が定着してきており、毎年楽しみにしているという声を聞く一方で、店舗ではマンネリ感が否めず、地区によっては来場者数の減少を感じているようである。各地区商店会の会長が中心となり、イベントを盛り上げるための取組も実施しているが、商店会長の高齢化もあり、年々縮小傾向にあることも要因であると考えられる。当イベントを通じ、新たな販路開拓に繋げていきたいと考えている次世代のリーダー層の育成も今後は必要であると考えられる。また、来場者にとっても、新たな店舗の魅力を発掘してもらうため、イベントの回遊性を高める仕掛けや、賑わいや導線を創出するための企画を盛り込みながら、「店舗の認知度及び販売機会の向上」に繋げていけるよう、事業の見直し、改善を行い今後も事業を遂行していく。</p> <p>【みのおのまち商学校】 参加事業所の業種としては、美容系、保険系、鍼灸系が毎回多く、受講者からは、自分でできるモノづくりへの挑戦や料理等もっと色々な種類の講座が欲しいという声が多い。しかし、人気の高い飲食系・モノづくり系の開催がなかなか伸びない。今年度は事業者から、申込前に毎回定期的に勉強会を開催したいという意見があり、夏は事業者主体で参加を呼びかけ異業種の意見を取り入れて講座を考える勉強会、冬は「テーマや内容について」経営指導員が講義行った後、少人数でディスカッションを実施しとても好評だった。毎回まちゼミ実施後に報告会を開催しているが、参加者数が参加店の3分の1程度なので、出来るだけ報告会へ参加を促せるように、勉強会を併せて開催するなど工夫をして行く必要がある。また、事前の周知に関して、各事業所が実施できるようポスターやチラシを配布しているが、Web等を活用した周知は、各事業所によって対応がバラバラであり、あまり積極的ではない事業所の集客は少ない傾向があった。今後は、各事業所の集客力向上、魅力向上に向けた支援を強化させていきたい。</p>		
具体的な実施内容・手法 (該当型に○)いつ・どこで・何を・どのようにするのかを明確に)	人材育成型	◇みのおのまち商学校【販路開拓型】 <u>夏と冬の年2回、リアル開催とオンライン開催を交えて実施し、参加店舗数は30~35店舗を目指す。まちゼミの創始者「松井洋一郎氏」によるオンラインセミナーを実施し、全国のまちゼミの事例やまちゼミを活用したファンづくりについて事前勉強会を実施する。また、テーマ、内容、効果的な講座の進め方や講座実施後のフォロー等について、指導員や専門家の意見を交えながら、参加者同士でゼミの内容等をブラッシュアップする付随活動にも注力していく。</u>		
	人材交流型			
	○ 販路開拓型			
	ハズオン型			
	独自提案型			
	事業手法 (該当する場合は○印と下欄にその根拠)	<input type="checkbox"/> (a)府施策連携 <input type="checkbox"/> (b)広域連携 <input checked="" type="checkbox"/> (c)市町村連携 <input type="checkbox"/> (d)相談事業相乗効果	(c)箕面市が策定した商業活性化ビジョンを受け、箕面商工会議所が具体的アクションプランを遂行するという形態で、箕面市からの補助金を受けて事業を実施している。その他市内関係施設にチラシ、ポスター設置、後援名義の使用など、協力体制を取る。(d)イベントがきっかけで接点できた事業所に、その後の顧客との関係性構築など発展的支援を行うことにより、相談事業カルテと連携させる。	
事業の目標	支援対象企業数	設定根拠及び募集方法⇒	まちゼミ「みのおのまち商学校」参加事業所数。過去の実績データより算出。	
		30 社	広報誌やチラシ、経営指導員による勧誘のほか、参加事業所からの紹介により参加事業所を募る。	
	支援対象企業の変化	1開催あたり平均5名程度の受講者であることから、2日開催と想定し、1店舗当たりのまちゼミ事業への集客人数を指標とする。この数字は後日固定客につながる可能性のあるものなので、非常に重要な指標と考えている。		
	指標	1店舗あたりのまちゼミ事業への集客人数	数値目標	10人
	その他目標値	目標値の内容⇒		

事業名		商業活性化アクションプラン推進事業					新規/継続	継続	
算定基準により算出される額	算定基準 (行が足りない場合は、⇒の行に挿入)	サービス単価		支援企業数		係数		標準事業費	
		⇒ 50,500 円 ×		30 ×		1.20 =	1,818,000 円		
	(小計)							1,818,000 円	
	※新規の広域連携事業の場合は広域連携促進費を加算(小計の5%)							円	
	計							1,818,000 円	
	独自提案単価及び独自補正係数の根拠 (基準どおりの場合不要)								
	算出額	①市町村等補助		909,000 円		交付市町村等			
		②受益者負担		円		負担金の積算			
(a)府施策連携		(b)広域連携	<input type="radio"/>	(c)市町村連携	<input type="radio"/>	(d)相談事業相乗効果			
標準事業費			補助率		(①市町村等+②受益者負担)				
1,818,000 円 ×			0.50 =		909,000 円 (909,000 円)				
補助金の団体配分 (「代」欄には、中核団体またはヒアリングで説明する代表団体に○)	代	商工会・会議所名	配分額		役割(配分の考え方)				
			円						
			円						
			円						
			円						
			円						

【備考】

※別添で補足する内容があれば添付してください。

小規模事業経営支援事業 地域活性化事業 変更理由書

箕面商工会議所

事業名

商業活性化アクションプラン推進事業

計画に対する
実績（数値）

支援企業
数(計画)

30

支援企業
数(実績)

支援
実績率

0.0%

【参考】
参加者数

理 由

【変更の経過と理由】

本事業にて、「箕面100円商店街」と「みのおのまち商学校（まちゼミ）」の2事業を実施する予定であったが、「箕面100円商店街」は、商店街の賑わいを創出する事業であり、3密を避けることが難しいことから、開催を断念することとした。

新しい生活様式の実践例として紹介されている、「身体的距離の確保」が密集している店舗前での行列や、回遊の際に避けることが難しいほか、時間の分散も難しいことから、顧客同士の「密」を避けること、店主と顧客との「密」を避けることが難しい状況となることから、開催を断念することとした。

2020年7月22日商店街連合会の役員会の際に、商店会の意向を確認したところ、現状では密を避けきることが難しいため中止も致し方ないとの意見より、中止の判断となった。

そのなかで、現状商店街や個店が求める支援としては、感染症対策をどのように実施すればいいのか、良いツールがあれば提供して欲しいとの声より、地域活性化事業で新たにコロナパッケージ④に該当する「商店街の感染症対策の促進事業」を実施する。また、あわせて箕面商工会議所独自の施策としてフェイスシールドや、業種ごとの感染症対策と需要喚起を促進するためのオリジナルマニュアルを作成・配布し普及啓発に努めることとする。

「みのおのまち商学校（まちゼミ）」については、新しい生活様式の実践例を踏まえた対策を実施していきながら少人数での開催やオンライン開催を交えて実施することで、新たな販路開拓に繋がる取組を実施する。

【支援効果】

【今後の改善方策】

事業名		社会課題解決ビジネス創出事業		新規/継続	継続
想定する実施期間		2019 年度～	年度まで	←複数年段階的实施事業は左欄に○を また、別紙にて計画を提出すること	
事業の概要	事業の目的 (現状や課題をどのような 状態にしたいか)	<p>近年、AI・IoTの先端技術によりデータが爆発的に生まれ、その活用により革新的な製品・サービスが世界中で創出され、世界の産業構造が大きく変わりつつある。そのようなグローバルで激しい競争に対応し、企業が打ち勝っていくために産業の在り方として、Connected Industriesを目指していく必要がある。先端技術が、人、技術、機械や様々なものが企業や産業、地域を超えて繋がっていく社会において、企業間の繋がりがより一層求められている。この繋がりにから新たな製品・サービス・価値を生み出すことで、様々な社会課題を解決していくことを目指す。</p> <p>小規模企業白書によると、小規模事業者のIT利活用として「財務・会計」、「在庫管理」、「給与管理・勤怠管理」、「受発注」、「顧客管理」の5業務で電子化ができていない企業は1割に留まっており、全く導入していない企業も4割を占めている。小規模事業者が約半数を占める箕面市内の事業者においても、第4次産業革命技術を自分事として捉え積極導入をしている企業が少ない状況である。要因として、技術、産業構造の変化に対する情報の不足、体験の不足が考えられるため、バックオフィス改革やサプライチェーンの最適化を目指したフィンテック・RPA等の活用を含めたメリットの見える化、導入しやすいツールの発信を重点的におこない、先端技術利活用に関する意識改革を目指す。</p> <p>また、箕面市内では少子高齢化をはじめとした社会課題に対応した福祉や教育関連等の新たなサービスが創出されているが、各企業が保有しているデータはそれぞれの企業での活用に留まっている。これらデータと先端技術を活用した企業間の連携や協調をすることで、付加価値が創出され社会課題解決に繋がると考えられる。事業者同士の協調、共創を目的とした交流の場を設けグローバルに対応した革新的な製品・サービスの創出を目指す。当事業を通じ、優秀でチャレンジ精神旺盛な人材の発掘、育成をおこない、ファンドへのチャレンジやマッチングにより、ベンチャーエコシステムの構築を目指す。</p>			
	支援する対象 (業種・事業所数等)	福祉、環境、健康、観光、農林水産業をはじめとした、第4次産業革命関連技術活用を活用したいと考えている箕面市内(大阪府内)の小規模事業者。自社の製品・サービス力を強化させ競争力を高めたいと考えている小規模事業者。他社との連携、共創をし新たな価値を生み出したいと考えている小規模事業者、創業希望者約2,000社を対象とする。			
	事業に対する 企業ニーズ (内容・把握方法等)	近年、AI等の先端技術の利活用に関する相談や生活に密着した社会課題解決に向けた新たな事業の創出や革新的な製品・サービスの開発に関する相談が増えている。自社が活用できる技術やサービスに関する情報補完や、新たな事業を始めたいが、自社だけでは実現が難しく、他社との協業、共創を目指したいという声から当事業のニーズは高いと考えられる。			

事業名		社会課題解決ビジネス創出事業	新規/継続	継続
これまでの取組状況 ※継続事業の場合のみ記入	実施内容・実績数値	<p>○実施内容</p> <p>AI等の先端技術が自社のビジネスにどのような影響をもたらすのか、遠い未来の話ではなく、近い将来起こりうる変化の可能性を自分事として捉え、今後の事業展開に活かしていただくための基調講演を実施した。講師には、AIに知見のある講師を招き、参加者からは「とても良い気づきを得られた」「勉強になった」との声をいただいた。また、地域事業者や先端技術提供事業者との共創により、新たなビジネス展開を検討していただくため、展示交流ブースを設けた。交流ブースには、地域事業者や経営指導員が来場者をアテンドすることで、活発な交流が行われた。</p> <p>日時: 令和元年11月14日(木)15時~20時 イベントタイトル: ビジネスマッチングフェアin箕面 会場: 箕面サンプラザ地下1階</p> <p>・基調講演: AIがもたらす企業の未来—中小企業がAI時代に備えること— 講師: 株式会社ISSUN 代表取締役 宮松利博氏 参加者満足度: 平均8.4点</p> <p>・ブース出展社数: 11社 (クラウド会計システム、RPA、HP制作サービス、リレーション、クラウドファンディング、SFA、作業分析AI、スマートグラス、越境EC、画像解析AI、SNS活用) 参加者満足度: 平均7.2点 来場者数: 82社 97名</p>		
	反省点	<p>テーマとして扱ったAI等の先端技術に関しては、地域事業者にとってはまだまだ関心が低いと考えられることから、「今来なければいけない理由」付けをどのように設定するか企画の絞り込みで時間がかかってしまった。そのため、広報活動が十分だったと言えず、「日程が合わずもっと早く知らせてほしかった」との意見もあった。また、タイトルだけでは何のイベントか伝わり辛く、チラシを見て来場された方が、「期待していた内容と異なっていた」という声も聴かれた。しかし、基調講演や展示や交流ブース等企画内容には概ね好意的な意見が多く、次回来場に対して「ぜひ参加したい」「都合があれば参加したい」が9割以上を占めた。これらの反省点、課題を踏まえ地域事業者のマインド醸成を図っていきたい。</p>		
具体的な実施内容・手法 (該当型に○)いつどこで何をどのようにするのかを明確に)	○ 人材育成型	<p>イベントタイトル: ビジネスマッチングフェアin箕面 開催時期: 令和2年8~11月頃(予定) 開催場所: 市内レンタルイベントスペース</p>		
	人材交流型	<p>第4次産業革命時代を自分事として捉えられるよう、AIやIoT等の導入事例企業による事例発表や有識者によるファシリテーションを通じたワークショップを開催。参加者80名程度を見込む。</p>		
	販路開拓型	<p>出展企業は10社程度を見込み、ブースでの交流のほか、ライトニングトークを実施。そのほか参加者同士が交流できるスペースを設け、指導員や登録専門家等を中心に企業同士の交流を促していく。</p>		
	ハンズオン型	<p>今年度同様、「今参加しなければいけない理由」をしっかりと訴求することで、参加に対する動機付けをおこなう。また、広報開始を早めることで、1社でも多くの企業の参加を促していく。</p>		
	独自提案型	<p>今年度同様、「今参加しなければいけない理由」をしっかりと訴求することで、参加に対する動機付けをおこなう。また、広報開始を早めることで、1社でも多くの企業の参加を促していく。</p>		
事業手法 (該当する場合は○印と下欄にその根拠)	<input checked="" type="checkbox"/> (a)府施策連携	<input type="checkbox"/> (b)広域連携	<input checked="" type="checkbox"/> (c)市町村連携	<input checked="" type="checkbox"/> (d)相談事業相乗効果
<p>(a)府施策連携商2番 成長産業振興室産業創造課 産業化戦略グループ(産業化戦略センター)と連携し、事業の企画、広報活動を実施する。 (c)箕面市地域創造部営業室と連携し、事業者への広報活動を行う。 (d)事業実施後の個別相談を実施し相談事業との相乗効果を図る。</p>				

事業名		社会課題解決ビジネス創出事業				新規/継続	継続		
事業の目標	支援対象企業数	設定根拠及び募集方法⇒	セミナー参加者80名のうち50名を対象とする。広報誌やホームページ、チラシや箕面市広報誌、大阪府のメルマガ等による広報活動のほか、経営指導員による勧誘を実施する。						
		50 社							
	支援対象企業の変化	本イベントに参加することで、第4次産業革命時代に備えた意識改革を通じ、グローバルな社会課題に対応した製品・サービスの開発に取り組むため、共創を目指すきっかけとすること。							
	指標	アンケートにて、今後自社の課題解決に取り組むきっかけとなったと回答する参加者数			数値目標	40社			
	その他目標値	目標値の内容⇒							
算定基準により算出される額	算定基準 (行が足りない場合は、⇒の行に挿入)	サービス単価		支援企業数		係数		標準事業費	
		⇒	20,200 円 ×	50	×	1.00	=	1,010,000 円	
			円 ×		×		=	円	
			円 ×		×		=	円	
			(小計) 1,010,000 円						
			※新規の広域連携事業の場合は広域連携促進費を加算(小計の5%) 円						
		計 1,010,000 円							
	独自提案単価及び独自補正係数の根拠 (基準どおりの場合不要)								
算出額	①市町村等補助		円	交付市町村等					
	②受益者負担		円	負担金の積算					
	○ (a)府施策連携		(b)広域連携	○ (c)市町村連携	○ (d)相談事業相乗効果				
	標準事業費		補助率		(①市町村等+②受益者負担)				
	1,010,000 円 ×		1.00 =		1,010,000 円 (円)				
補助金の団体配分 (「代」欄には、中核団体またはヒアリングで説明する代表団体に○)	代	商工会・会議所名	配分額		役割(配分の考え方)				
			円						
			円						
			円						
			円						

【備考】

※別添で補足する内容があれば添付してください。

事業名		社会課題解決ビジネス創出事業		新規/継続	継続
想定する実施期間		2019 年度～	年度まで	←複数段階の実施事業は左欄に○を また、別紙にて計画を提出すること	
事業の概要	事業の目的 (現状や課題をどのような状態にしたいか)	<p>近年、AI・IoTの先端技術によりデータが爆発的に生まれ、その活用により革新的な製品・サービスが世界中で創出され、世界の産業構造が大きく変わりつつある。そのようなグローバルで激しい競争に対応し、企業が打ち勝っていくために産業の在り方として、Connected Industriesを目指していく必要がある。先端技術が、人、技術、機械や様々なものが企業や産業、地域を超えて繋がっていく社会において、企業間の繋がりがより一層求められている。この繋がりがから新たな製品・サービス・価値を生み出すことで、様々な社会課題を解決していくことを目指す。</p> <p>小規模企業白書によると、小規模事業者のIT利活用として「財務・会計」、「在庫管理」、「給与管理・勤怠管理」、「受発注」、「顧客管理」の5業務で電子化ができていない企業は1割に留まっており、全く導入していない企業も4割を占めている。小規模事業者が約半数を占める箕面市内の事業者においても、第4次産業革命技術を自分事として捉え積極導入をしている企業が少ない状況である。要因として、技術、産業構造の変化に対する情報の不足、体験の不足が考えられるため、バックオフィス改革やサプライチェーンの最適化を目指したフィンテック・RPA等の活用を含めたメリットの見える化、導入しやすいツールの発信を重点的におこない、先端技術利活用に関する意識改革を目指す。</p> <p>また、箕面市内では少子高齢化をはじめとした社会課題に対応した福祉や教育関連等の新たなサービスが創出されているが、各企業が保有しているデータはそれぞれの企業での活用に留まっている。これらデータと先端技術を活用した企業間の連携や協調をすることで、付加価値が創出され社会課題解決に繋がると考えられる。事業者同士の協調、共創を目的とした交流の場を設けグローバルに対応した革新的な製品・サービスの創出を目指す。当事業を通じ、優秀でチャレンジ精神旺盛な人材の発掘、育成をおこない、ファンドへのチャレンジやマッチングにより、ベンチャーエコシステムの構築を目指す。</p> <p><u>これらによって、世界中で蔓延しているコロナウイルス感染症による経済危機を乗り越え、ウィズコロナに適した、新たな価値を提供するためのビジネスモデルの再構築を目指す。</u></p>			
	支援する対象 (業種・事業所数等)	福祉、環境、健康、観光、農林水産業をはじめとした、第4次産業革命関連技術活用を活用したいと考えている箕面市内(大阪府内)の小規模事業者。自社の製品・サービス力を強化させ競争力を高めたいと考えている小規模事業者。他社との連携、共創をし新たな価値を生み出したいと考えている小規模事業者、創業希望者約2,000社を対象とする。			
	事業に対する 企業ニーズ (内容・把握方法等)	近年、AI等の先端技術の利活用に関する相談や生活に密着した社会課題解決に向けた新たな事業の創出や革新的な製品・サービスの開発に関する相談が増えている。自社が活用できる技術やサービスに関する情報補完や、新たな事業を始めたいが、自社だけでは実現が難しく、他社との協業、共創を目指したいという声から当事業のニーズは高いと考えられる。			
これまでの 取組状況 ※継続事業の 場合のみ記入	実施内容・ 実績数値	<p>○実施内容</p> <p>AI等の先端技術が自社のビジネスにどのような影響をもたらすのか、遠い未来の話ではなく、近い将来起こりうる変化の可能性を自分事として捉え、今後の事業展開に活かしていただくための基調講演を実施した。講師には、AIに知見のある講師を招き、参加者からは「とても良い気づきを得られた」「勉強になった」との声をいただいた。また、地域事業者や先端技術提供事業者との共創により、新たなビジネス展開を検討していただくため、展示交流ブースを設けた。交流ブースには、地域事業者や経営指導員が来場者をアテンドすることで、活発な交流が行われた。</p> <p>日時：令和元年11月14日(木)15時～20時 イベントタイトル：ビジネスマッチングフェアin箕面 会場：箕面サンプラザ地下1階</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基調講演：AIがもたらす企業の未来—中小企業がAI時代に備えること— 講師：株式会社ISSUN 代表取締役 宮松利博氏 参加者満足度：平均8.4点 ・ブース出展社数：11社 (クラウド会計システム、RPA、HP制作サービス、リレーション、クラウドファンディング、SFA、作業分析AI、スマートグラス、越境EC、画像解析AI、SNS活用) 参加者満足度：平均7.2点 来場者数：82社 97名 			

事業名		社会課題解決ビジネス創出事業	新規/継続	継続
反省点		テーマとして扱ったAI等の先端技術に関しては、地域事業者にとってはまだまだ関心が低いと考えられることから、「今来なければいけない理由」付けをどのように設定するか企画の絞り込みに時間がかかってしまった。そのため、広報活動が十分だったと言えず、「日程が合わずもっと早く知らせてほしかった」との意見もあった。また、タイトルだけでは何のイベントか伝わり辛く、チラシを見て来場された方が、「期待していた内容と異なっていた」という声も聴かれた。しかし、基調講演や展示や交流ブース等企画内容には概ね好意的な意見が多く、次回来場に対して「ぜひ参加したい」「都合があれば参加したい」が9割以上を占めた。これらの反省点、課題を踏まえ地域事業者のマインド醸成を図っていきたい。		
具体的な実施内容・手法 (該当型に○) いつ・どこで・何を・どのようにするのかを明確に)	○ 人材育成型	<u>イベントタイトル: オンラインビジネスマッチングフェアin箕面(仮称)</u> <u>開催時期: 令和3年1月頃予定</u> <u>開催場所: オンライン開催</u>		
	人材交流型	<u>ウィズコロナを乗り越えるため、第4次産業革命時代における新たな価値の創出やビジネスモデルの再構築に関するセミナーのほか、箕面市内を中心とした企業が参加できるオンライン展示会を開催。</u>		
	販路開拓型	<u>出展企業は10~20社程度を見込み、オンラインによるライトニングトークのほか、商談が可能な仕組みを盛り込む。開催中は好きな時に好きなタイミングで参加できるよう、1週間程度期間を設ける。</u>		
	ハンズオン型	<u>オンラインで開催することで、密を避け感染拡大を防止しながら、参加に対するハードルを下げ、新たな価値を創造するためのきっかけとする。</u>		
	独自提案型	<u>オンラインで開催することで、密を避け感染拡大を防止しながら、参加に対するハードルを下げ、新たな価値を創造するためのきっかけとする。</u>		
事業手法 (該当する場合は○印と下欄にその根拠)		<input checked="" type="checkbox"/> (a)府施策連携 <input type="checkbox"/> (b)広域連携 <input checked="" type="checkbox"/> (c)市町村連携 <input type="checkbox"/> (d)相談事業相乗効果 (a)府施策連携商2番 成長産業振興室産業創造課 産業化戦略グループ(産業化戦略センター)と連携し、事業の企画、広報活動を実施する。 (c)箕面市地域創造部営業室と連携し、事業者への広報活動を行う。 (d)事業実施後の個別相談を実施し相談事業との相乗効果を図る。		
事業の目標	支援対象企業数	設定根拠及び募集方法⇒ 50 社	<u>オンライン参加者50名</u> を対象とする。広報誌やホームページ、チラシや箕面市広報誌、大阪府のメルマガ等による広報活動のほか、経営指導員による勧誘を実施する。	
	支援対象企業の変化	本イベントに参加することで、第4次産業革命時代に備えた意識改革を通じ、グローバルな社会課題に対応した製品・サービスの開発に取り組むため、共創を目指すきっかけとすること。		
	その他目標値	指標 アンケートにて、今後自社の課題解決に取り組むきっかけとなった回答する参加者数	数値目標 40社	
目標値の内容⇒				

事業名		社会課題解決ビジネス創出事業						新規/継続	継続
		サービス単価		支援企業数		係数		標準事業費	
算定基準により算出される額	算定基準 (行が足りない場合は、⇒の行に挿入)	⇒	20,200 円 ×	50	×	1.00	=	1,010,000 円	
			円 ×		×		=	円	
			円 ×		×		=	円	
		(小計)							1,010,000 円
		※新規の広域連携事業の場合は広域連携促進費を加算(小計の5%)							円
計							1,010,000 円		
独自提案単価及び独自補正係数の根拠 (基準どおりの場合不要)									
算出額		①市町村等補助		円	交付市町村等				
		②受益者負担		円	負担金の積算				
		<input type="checkbox"/>	(a)府施策連携	<input type="checkbox"/>	(b)広域連携	<input type="checkbox"/>	(c)市町村連携	<input type="checkbox"/>	(d)相談事業相乗効果
		標準事業費			補助率			(①市町村等+②受益者負担)	
		1,010,000 円 ×			1.00 =			1,010,000 円 (円)	
補助金の団体配分 (「代」欄には、中核団体またはヒアリングで説明する代表団体に○)		代	商工会・会議所名	配分額	役割(配分の考え方)				
				円					
				円					
				円					
				円					

【備考】

※別添で補足する内容があれば添付してください。

小規模事業経営支援事業 地域活性化事業 変更理由書

箕面商工会議所

事業名 社会課題解決ビジネス創出事業

計画に対する
実績（数値）

支援企業
数(計画)

50

支援企業
数(実績)

支援
実績率

0.0%

【参考】
参加者数

理 由

【変更の経過と理由】

本事業の実施にあたり、箕面市内でレンタルスペースを展開している貸し会議室において、80名程度を集客し集合セミナー・ワークショップを予定していた。しかしながら、会場内に不特定多数が集まり、新型コロナウイルスの感染拡大防止のために国から示された『人ごみなど、多くの人々の「密」集する場所、換気の悪い「密」閉空間、近距離での「密」接した会話』といった3つの「密」を避けることが難しい状況であることが判明した。

令和2年7月、当所内にて検討、府担当者とも協議をした結果、集合型の開催は断念せざるを得ないとの判断から、オンライン上でのセミナー、交流に切り替えての実施を決定した。

【支援効果】

【今後の改善方策】

【経費内訳】

事業名		商店街等の感染症対策の促進事業	新規/継続	新規
想定する実施期間		R 2 年度～ 年度まで	←複数年段階的实施事業は左欄に○を また、別紙にて計画を提出すること	
事業の概要	事業の目的 (現状や課題をどのような状態にしたいか)	<p>新型コロナウイルス感染症が蔓延するなか、外出自粛に伴う商店街の来街者の減少や、集客イベントの延期や中止などの影響を受け、箕面市内の商店街・個店も大きな影響を受けている。自粛要請解除後は、各個店ごとに手探りで感染症対策や需要喚起の取組を実施しているが、思うように来店客が戻らず非常に苦しい状況が続いている。飲食店舗においては、箕面市より「みのおテイクアウトクーポン」が発行されたことで、一定需要が戻ったようにもみえたが、クーポン終了後の状況を不安視する店舗も多い。また、飲食店舗においても、感染症対策を全く実施していない店舗もあり、地域住民にとっては不安材料となり、今後店舗の利用を控えるといったことも考えられる。個店だけでは、日々の営業をおこないつつながら感染症対策を実施することに大きなハードルを感じている事業者もいるため、そういった個店に向けた支援は必須であると考えられる。</p> <p>ウイルスと共存しながら、社会経済活動を取り戻すため、地域の経済を支えている商店街と来街される地域住民の不安を払拭し、安心して買い物をしていただけるよう、「新しい生活様式」を踏まえた「感染症対策」と「需要喚起」を支援するため、本事業を実施する。</p>		
	支援する対象 (業種・事業所数等)	箕面市商店会連合会に所属している11商店会279事業所、及び商店街を形成する箕面市内の事業者のうち、感染症対策に積極的に取り組む意欲のある事業所を対象とする。		
	事業に対する企業ニーズ (内容・把握方法等)	経営相談、巡回時や商店会連合会の会合等においても、感染症対策における支援を希望する声を聞いている。事業者が感染症対策に取り組む際、ガイドラインを確認しても、何をどこまで実施すればいいのかわからない、具体的に自社にあった対策を教えて欲しいとの要望があるため、本事業に対するニーズはあると考えている。		
これまでの取組状況 ※継続事業の場合のみ記入	実施内容・実績数値			
	反省点			
具体的な実施内容・手法 (該当型に○)いつ・どこで・何を・どのようにするのかを明確に)	人材育成型	◇感染症対策の普及啓発 大阪府が実施している商店街感染症対策等支援事業での取り組みを市内商店会へ横展開する。新しい生活様式の実践を踏まえた啓発ポスターやのぼり等のツールを配布し、商店街や個店への普及啓発を実施する。		
	人材交流型	普及啓発にあたっては、衛生管理、感染症対策に関して知見のある専門家のほか、ウィズコロナを踏まえた需要喚起を促進するためのマーケティング専門家を交えた検討会を開催し、実施に向けて知識習得をおこなうとともに、国のGoTo商店街事業への応募申請を促す。		
	○ 販路開拓型	ツールの配布等は、年内を目途に順次経営指導員を中心に啓発を行う。より具体的な対策について助言が必要な場合は、適宜専門家を派遣し、感染症対策及び需要喚起に向けた取組に関する支援を実施する。また、可能な限り大阪コロナ追跡システム・感染防止宣言ステッカーの取得についても普及啓発をおこなう。		
	独自提案型	事業実施後は、事業所の取組状況のモニタリングと、アンケートにより効果測定を実施する。 実施にあたっては、以下の点に留意して進める。 ・商店街組織の合意を得て組織全体で感染症対策に取り組む。 (府に提出する「啓発素材の使用申請書」のとりまとめを行う。) ・全振連が公表している「商店街における感染症防止対策に向けた基本的な方針」の遵守する。 ・ポスター・のぼり等により、感染症対策の取組みを「見える化」する。 ・大阪府の「大阪コロナ追跡システム」「感染防止宣言ステッカー」の活用を促進し、活用店舗数を報告する。 ・必要に応じて国のGoTo商店街事業への応募申請をサポートする。 ・商店街の取組みを商店街感染症対策等支援事業特設サイトの商店街レポートなどで情報発信する。		

事業名		商店街等の感染症対策の促進事業				新規/継続	新規	
事業手法 (該当する場合は ○印と下欄に その根拠)		<input checked="" type="radio"/> (a)府施策連携	<input checked="" type="radio"/> (b)広域連携	<input checked="" type="radio"/> (c)市町村連携	<input checked="" type="radio"/> (d)相談事業相乗効果			
		(a)府施策連携商27番中小企業支援室 商業・サービス産業課 商業振興グループと連携し、モデル事業に関する情報提供、企画について支援を受ける。 (c)箕面市地域創造部営業室と連携し、本取組の広報を実施する。 (d)新しい生活様式を踏まえた需要喚起に関する取り組み等個別支援や専門家派遣を実施し、相談事業に繋げる。						
事業の目標	支援対象企業数	設定根拠及び 募集方法⇒	商店会及び商店街を形成する箕面市内の事業者のうち、感染症対策に積極的に取り組む意欲のある事業所約100社に普及啓発をおこない、うち効果測定を実施する40社を対象とする。取組事業者は箕面市商店会連合会への周知や、広報誌にて募集をおこなう。					
	支援対象企業の変化	40 社	本取組を実施することで、自店に適した新型コロナウイルス感染症対策に取り組むことができ、風評被害の払拭、需要喚起促進を図る。地域を支える商店街において、人の流れと賑わいを創出し、感染症対策と経済活動の両立を実現する。					
	その他目標値	指標	アンケートにて「感染症対策に対する意識が高まった」と回答する事業者の数	数値目標	35社			
算定基準により算出される額	算定基準 (行が足りない場合は、⇒の行に挿入)	サービス単価	支援企業数	係数	標準事業費			
		⇒ 50,500 円 ×	4 ×	10.00 =	2,020,000 円			
		円 ×	×	=	円			
		円 ×	×	=	円			
					(小計)	2,020,000 円		
					※新規の広域連携事業の場合は広域連携促進費を加算(小計の5%)	円		
				計	2,020,000 円			
独自提案単価及び独自補正係数の根拠 (基準どおりの場合不要)								
算出額	①市町村等補助	円	交付市町村等					
	②受益者負担	円	負担金の積算					
	<input type="radio"/> (a)府施策連携	<input type="radio"/> (b)広域連携	<input type="radio"/> (c)市町村連携	<input type="radio"/> (d)相談事業相乗効果				
	標準事業費	補助率	(①市町村等+②受益者負担)					
		2,020,000 円 ×	1.00 =	2,020,000 円	(円)			
補助金の団体配分 (「代」欄には、中核団体またはヒアリングで説明する代表団体に○)	代	商工会・会議所名	配分額	役割(配分の考え方)				
			円					
			円					
			円					
			円					

【備考】 コロナパッケージ④